

ヒメウ *Phalacrocorax pelagicus* Pallas

【選定理由】

11月から5月頃まで、主に渥美半島の太平洋沿岸、知多半島の先端周辺、三河湾の島嶼などの岩場の多い海岸に生息する。愛知県鳥類生息調査では、伊良湖岬周辺の「古山」調査地で毎年150羽から300羽以上が記録されていたが、最近では100羽程度に減少しており、遠州灘の他の部分でも減少傾向が見られる。知多半島の先端部周辺や西尾市の旧幡豆町、田原市などの三河湾沿岸部では、以前から少数の越冬個体が認められていたが、近年三河湾の島嶼周辺で、毎年100羽程度が越冬していることが確認された。三河湾の島嶼では、これまでほとんど定期的な鳥類調査が行われてこなかったが、1986年の2月にも100羽前後の生息が記録されており、島嶼周辺の岩礁などにも大きな環境変化が見られないことから、当時と同じ程度の本種が継続して越冬していたものと思われる。

【形態】

全長63～73cm、翼開長91～102cm。全身が緑色光沢を帯びた黒色で、体形、特に嘴と頸が細い。夏羽は、顔の裸出部が赤く、頭頂と後頭の2ヶ所に房状の冠羽があり脚の付け根に白斑が出る。冬羽は、顔の裸出部が黒く、冠羽は目立たず脚の付け根の白斑はない。幼羽は、冬羽に似るが、全身が黒褐色で光沢がない。



愛知県西尾市, 2015年4月16日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

冬期に太平洋沿岸、知多半島先端部周辺や三河湾の島嶼周辺および三河湾の東部や南部の沿岸で越冬する。

【国内の分布】

北海道や岩手県、大分県の沿岸で繁殖し周年生息するが、冬は九州以北で越冬する。

【世界の分布】

千島列島、カムチャツカ、サハリンから北アメリカの太平洋岸にかけて分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

自然の岩礁が発達した海岸を好み、潜水して主に魚類を捕食する。岩礁の上で群れになって休息するが、警戒心が非常に強く、船や人が近付くと直ぐに飛び去ってしまう。しかし、若い個体が単独で採餌している場合には、比較的警戒心が弱いこともある。

【現在の生息状況／減少の要因】

遠州灘の伊良湖岬周辺や旧赤羽根町、高松一色などの岩礁周辺で見られることが多く、次いで三河湾内の島嶼に多く生息する。減少の要因は不明であるが、渥美半島の岩礁では釣りなどで人の接近が多い場所があり、こうした場所は警戒心の強い本種には安定した生息地とはいえない。

【保全上の留意点】

特別な保全対策は不要と思われるが、何気ない岩礁にもその環境に依存して生息する生物が存在することを、訪れた人に知ってもらうことは必要と思われる。

【特記事項】

三河湾の島嶼部分では、鳥類について1年を通しての定期的な調査がなされていなかったが、近年定期調査を実施したところ、島嶼の周辺には遠州灘に近い数の本種やウミウが越冬していることが確認された。

【関連文献】

真木広造・大西敏一・五百澤日丸, 2014. 決定版 日本の野鳥 650, p.148. 平凡社, 東京.
吉井 正, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.44. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)